

# 虹の架橋

みんなの力でいい街にしよう!

## 今月の題字 橋場 基 さん

(みどり市笠懸町)

同世代の気の合うメル友であり、みどり市の発展を願う「同志」でもあります。観光シーズン本番の秋を迎え、橋場さんとは、あっちこっちで顔を合わせます。

### 醤油の香りが漂う「桶」の細道？ 「河内屋木道」が完成！

天明7年（1787年）創業の岡直三郎商店は、「河内屋」さんという屋号で親しまれています。裏通りまで続く何棟もの仕込蔵には人の背丈ほどもある木桶が百個以上並び、江戸時代からの伝統的な製法で醤油を造っています。百年以上使い続けた木桶の中にはタガが外れたり、ゆるんで使えなくなったものもあります。三方良しの会では、この木桶の杉板を再利用して、岡商店北隣の路地を「河内屋木道」として整備し、その入口の空店舗の上には大間々高校美術部の生徒たちが作った切り絵を配した案内板も設置しました。



木道からは醤油の香りとレトロな雰囲気芭蕉の気分で「桶」の細道、「岡」の細道を歩いて一句ひねってみませんか。

### 「三方良しの井戸」

河内屋木道の入口から40メートルのところ古い井戸があります。この井戸は岡商店が掘った井戸ですが、周囲の人たちが自由に水を使えるようにという配慮から、堀の外側に設置しました。近江商人である岡商店が「三方良し（売り手良し、買い手良し、世間良し）」の心で作った井戸を「三方良しの井戸」と名づけ、思いやりのシンボルとして後世に伝えると共に、災害時にも活用できるように修復しました。是非ご覧下さい。



小耳にはさんだ いい話 (文責・靖) 《195》

### いい話は人に伝える

本棚にあった「お金でなく、人のご縁でつく生きろ！」（中村文昭著・サンマーク出版）という本を読み返しました。この本に「いい話は3日以内に5人にしゃべると書かれています。本を読んだり、人の話を聞いて感動してもすぐに忘れてしまいます。「いい話は誰かに伝えて広める」ということがとても大事だと思います。この話に関連して、心温まる話が紹介されていました。

「学年一成績の良い女の子がいました。塾にも通わず、家庭教師の世話にもなっていないのに、なぜ成績がいいのですかと、先生がその子のお母さんに尋ねました。そのお母さんは、子供の頃から家が貧しく、無学なまま育ったのだそうです。『近所のお母さんたちと話をしたりする時に、何も知らなくてとても恥ずかしい思いをするのよ』と何気なく子供に話したそうです。すると、それを聞いた女の子が、次の日から『私、今日こんなことを習ってきたのよ』

と、それはそれは一所懸命に学校の授業の内容を覚えてくれるようになったというのです。『お母さんが勉強できなかったぶん、私が一所懸命聞いてきて教えてあげる。もうお母さんに恥ずかしい思いなんかさせないから』という気持ちから女の子は熱心に授業を聞いたのです。誰かから押し付けられて勉強をするのではなく、お母さんに教えてあげたいというひたむきで能動的な気持ちで、結果として抜群の成績をもたらすことになったわけですね。自分だけよければという向上心ではなく、人も自分も一緒に向上していける道があるという素晴

### 世界一小さな

### 定利屋

### トイレ美術館

### 今月の作品《195》

### 形山睡峰さん『案山子図』



十数年前からご縁をいただいている霞ヶ浦の無相庵・菩提禅堂堂長の形山睡峰（虚峰玄爐）さんにお願ひして「案山子図」を描いていただきました。「たおれても弓矢は捨てぬかかしかな」という山岡鉄舟の句に添えられている案山子（かかし）の絵を見ていると、穏やかな心の中に勇気がわいてくるような気がします。大間々の植木邦夫さんにお願ひして額装していただきました。大切な宝物として足利屋に飾らせていただきます。多くの人にこの作品を味わっていただければ嬉しいです。



らしい証拠だと思おうので「す」と書いてあります。「かき込めば、脇に出していく風呂のお湯。押し出せば、脇から入る風呂のお湯」という言葉も本の中にありました。中村文昭さんの本やCDには、「頼まれ事は試され事」は、「頼まれ事は試され事」に「頼まれたら損得を考えずに0.2秒でハイかイエス」など、ご縁を大切に生きていくヒントがたくさんあります。12月24日に高崎で、中村文昭さんと比田井和孝さん（先月の虹の架橋で紹介）の講演会があります。（千円）足利屋に入場券があります。

### 靖ちゃん日記

10月20日（木）  
大間々街路灯組合のバス旅行。一泊で北陸へ行って来た。金沢の兼六園を見学し、4時に和倉温泉へ到着。目の前に能登湾外広がる絶景の旅館だった。七福神巡りの地図をもらい、下駄をそろして一人で散歩した。七福神を回り、女将から輪島の箸をもらった。いいコースだったので夜の宴会で「明日の朝、七福神巡りをしよう」とみんなを誘った。朝6時、元美女9人外集合。女子生のようにはしゃぶ存から七福神を巡った。途中の青林寺でおみくじを引いた。「吉」と出た。「仕事も金運も良くやるが、調子にのると道を踏み外す」と書いてあった。仏様の横に「具合の悪いところを仏様にお願ひするからなぞると治る」と書いてあった。元美女たちが仏様の頭や胸や腰の辺りをなぞっていた。皆おみくじをみてから、仏様と自分の股間を交互にぞるとぞった。気のせいかな。元気が出てきた。調子にのって、下りの石段を踏み外しそうになった。



### 艶やかに凛と生きたし柿紅葉

昔、濡れ落葉族という言葉が流行しました。辞書には「仕事も趣味も仲間もなく、（濡れた落葉が地面に張り付いたように）妻に頼りきって離れようとしないうえに定年退職後の男たち」と書かれています。今朝、雨に濡れた柿の葉が庭一杯に落ちていました。濡れ落葉ではなく、朝日にキラキラと輝き、「色彩の魔術師」といわれたマテイイスの調和のとれた絵のように見えました。自営業に定年はありませんが、還暦間近の私に柿紅葉が凛としたお手本を示してくれました。

虹の架橋検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

第196号は12月1日（木）発行予定です。

靖ちゃんの似顔絵提供：ひさかさん

